

最近の消費・輸入動向等について

《 目 次 》

1. 家計における購入、支出動向等
 - (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入 P. 1～3
 - (2) 野菜の摂取量 P. 4
2. 小売の販売動向
 - (1) チェーンストア P. 5
 - (2) スーパーマーケット P. 6
 - (3) 品目別小売・卸売価格 P. 7～8
3. 輸入の動向 P. 9～10
4. 平成27年産夏秋野菜主要品目の主産県別生産・出荷等 P. 11
5. 今後の気象予報 P. 12～13

1. 家計における購入、支出動向等

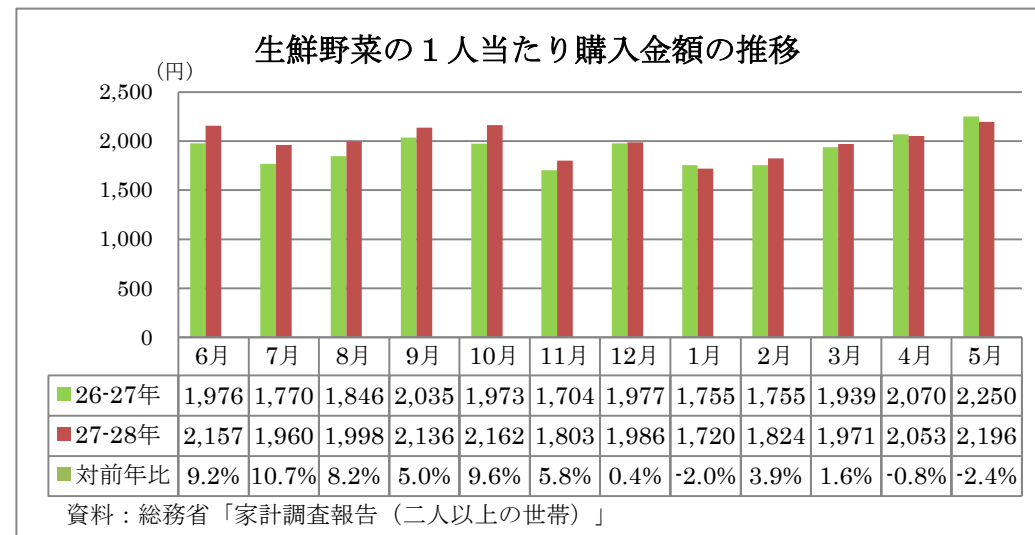
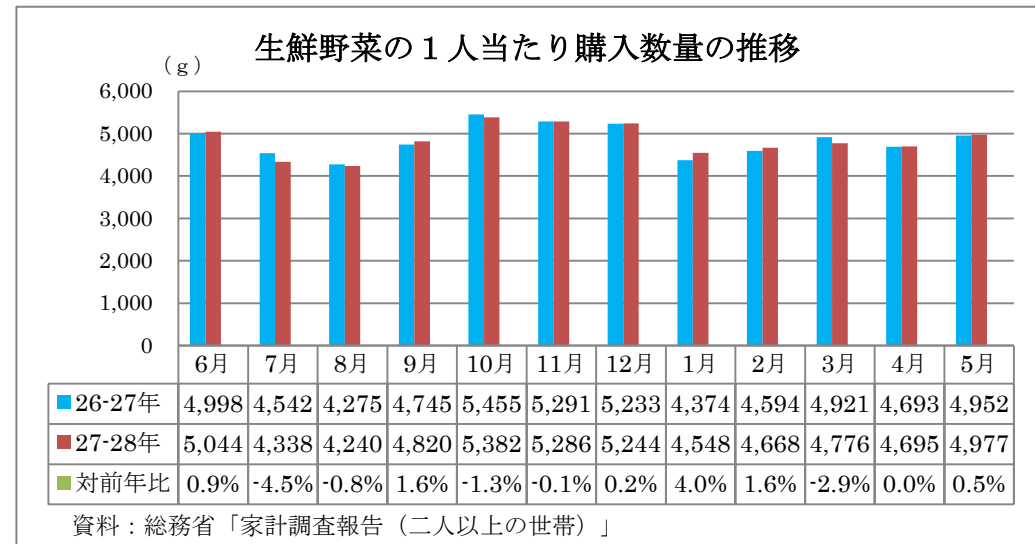
(1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入

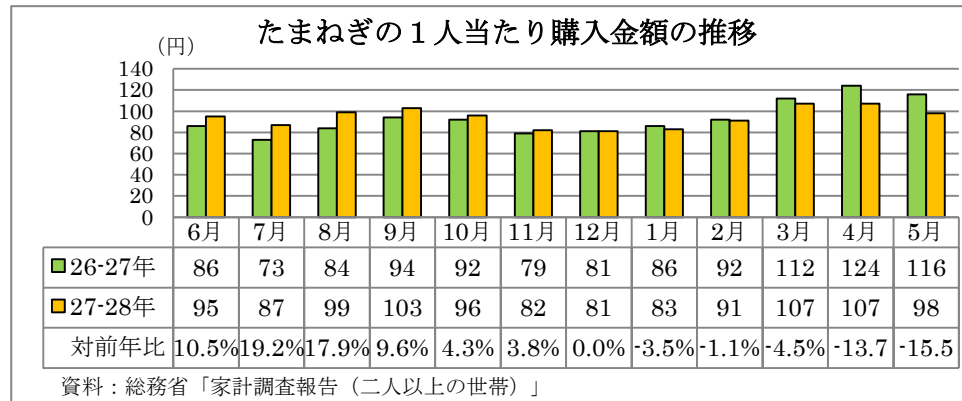
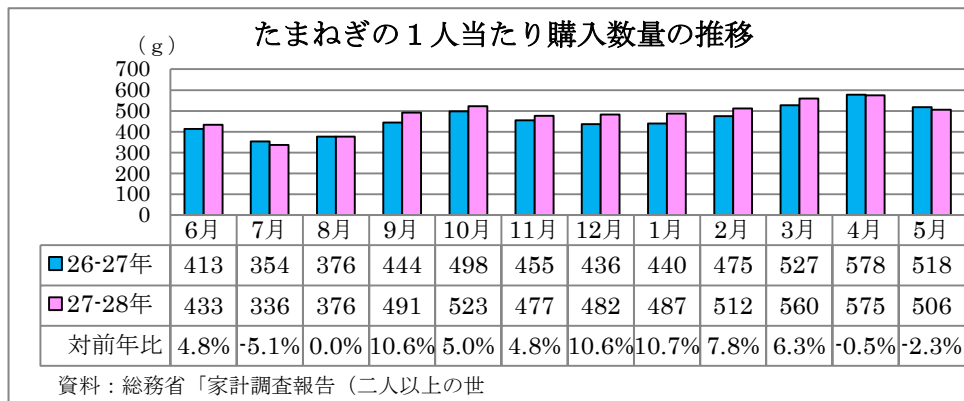
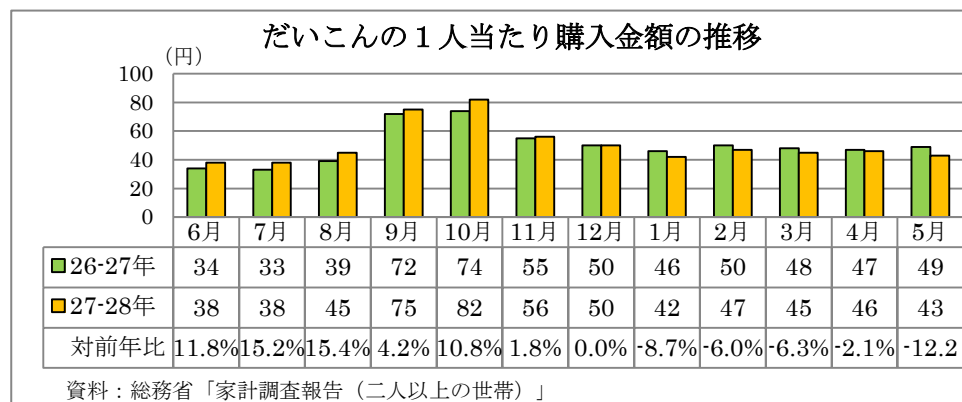
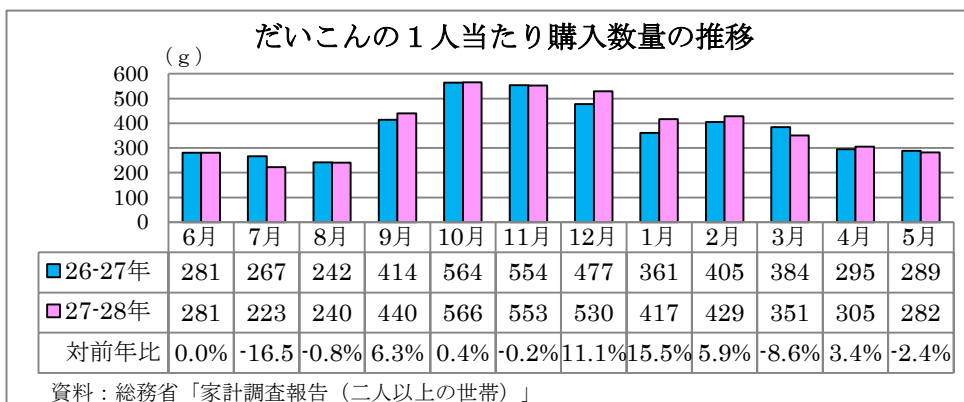
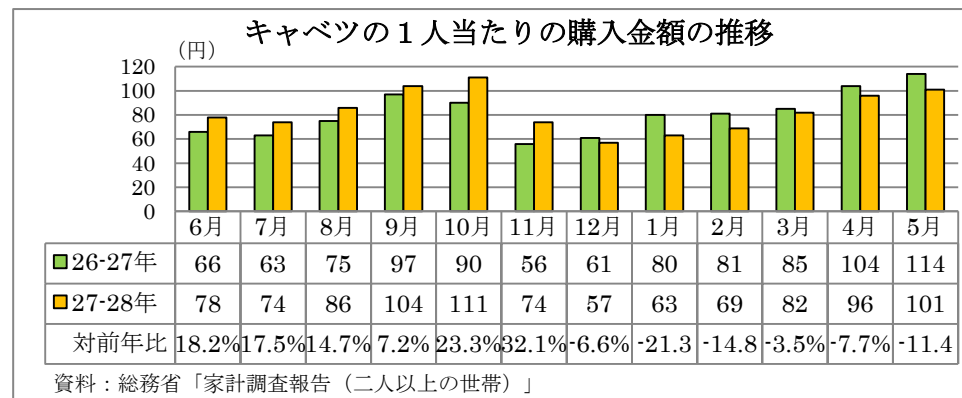
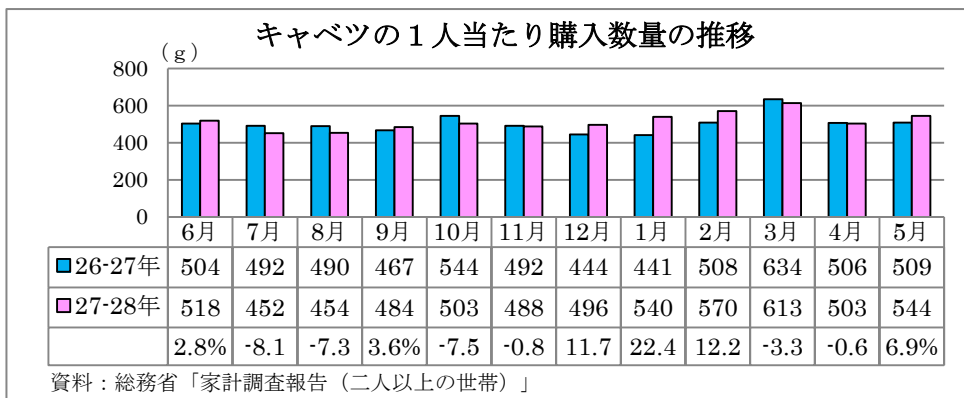
<購入数量>

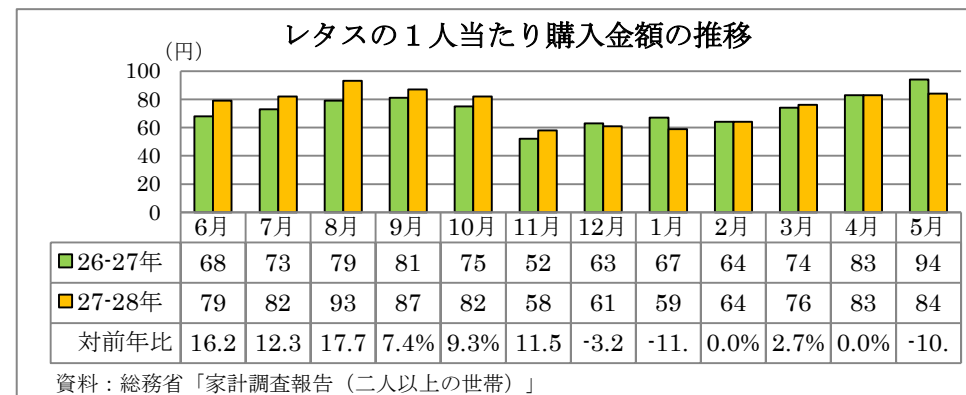
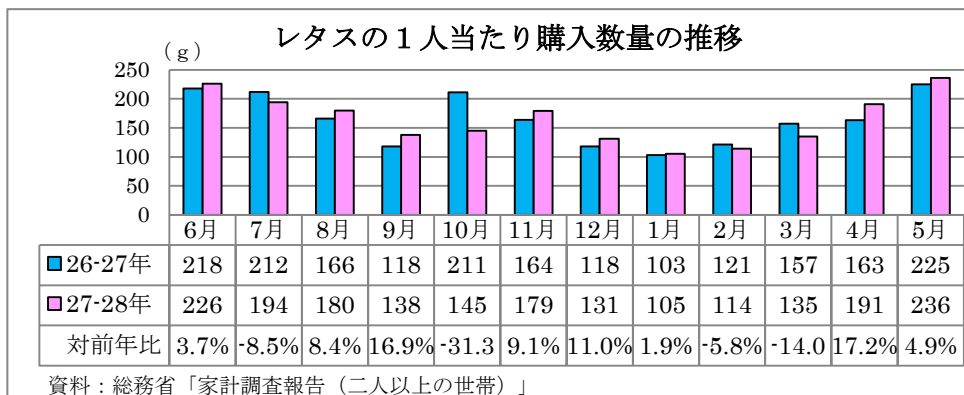
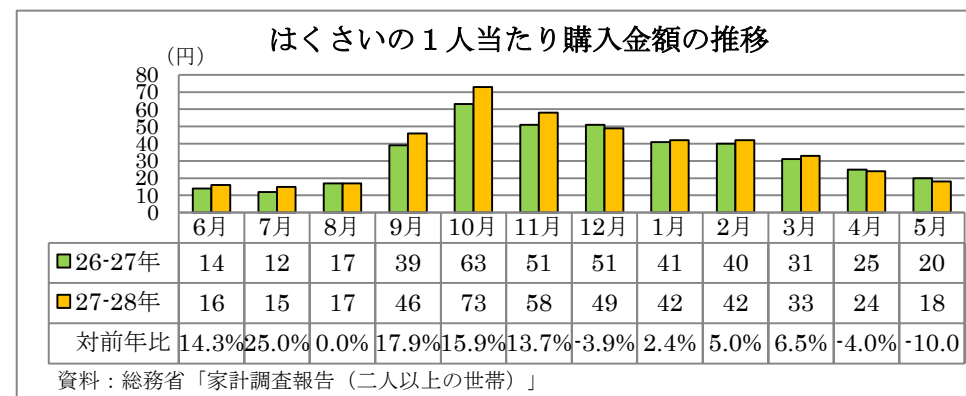
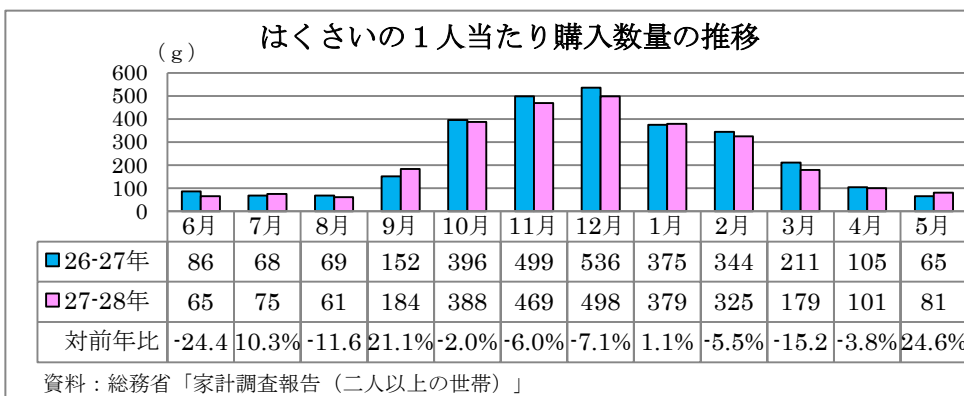
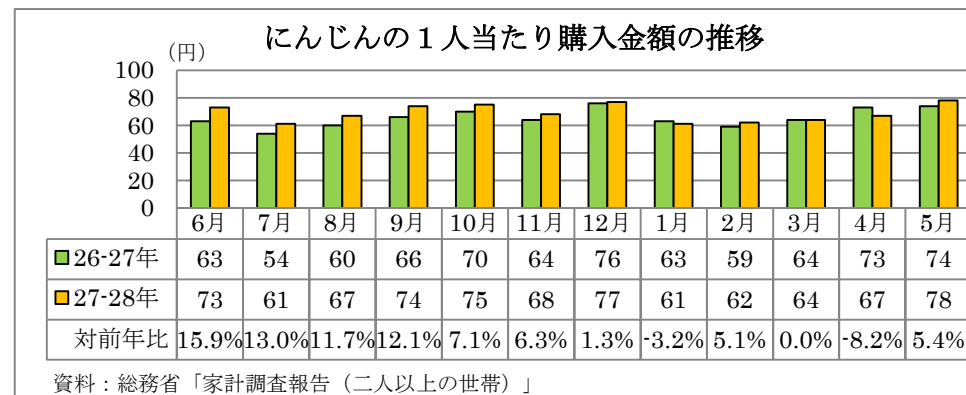
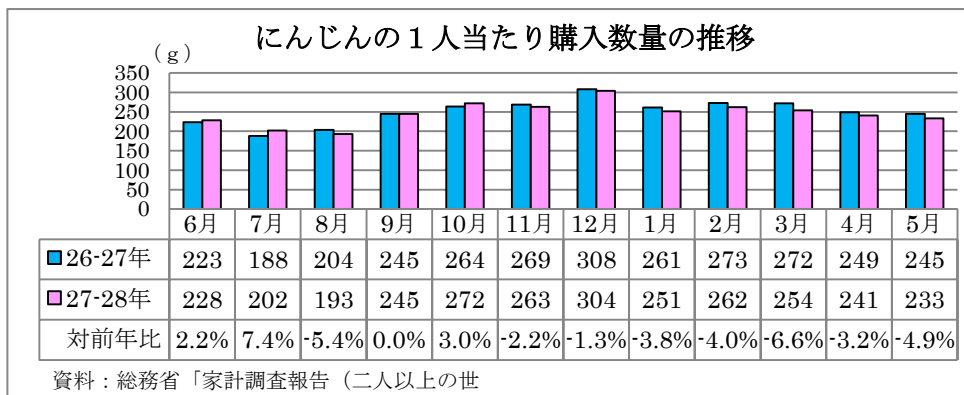
- 生鮮野菜の1人当たりの購入数量は、平成27年7月、8月は、だいこん等の価格が、干ばつの影響により出荷数量が減少し、前年に比べて高値となったことから、前年を下回った。
- 10月は、レタス等の価格が、曇雨天等により出荷数量が減少し、前年に比べて高値となったことから、前年を下回った。
- 12月から2月には、だいこん等の価格が、天候に恵まれて前進出荷傾向となったため出荷数量が増加し、前年に比べて安値となったことなどから、前年を上回った。
- 3月は、はくさい等の価格が、前進出荷の影響で端境が生じたこと等により出荷数量が減少し、前年に比べて高値となったため、前年を下回った。

<購入金額>

- 生鮮野菜の1人当たりの購入金額は、11月頃までは主要野菜の価格が、天候不順による品薄感から、総じて昨年は高値となったことから、前年を上回って推移した。
- 12月、1月は、出荷が順調で引合いが弱まり、価格も平年を下回ったことから、12月には前年並み、1月には前年を下回った。
- 2月、3月は、端境等で引合いが強まり、高値となったことから前年を上回った。
- 4月、5月は、出荷が順調で引合いが弱まり、価格が前年に比べ低下したことなどから、前年を下回った。

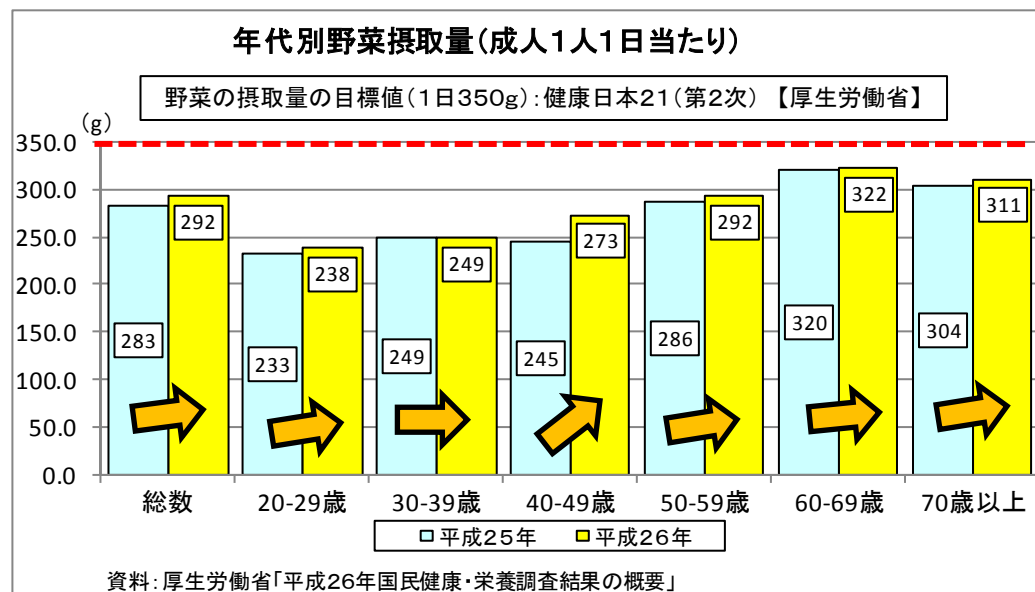




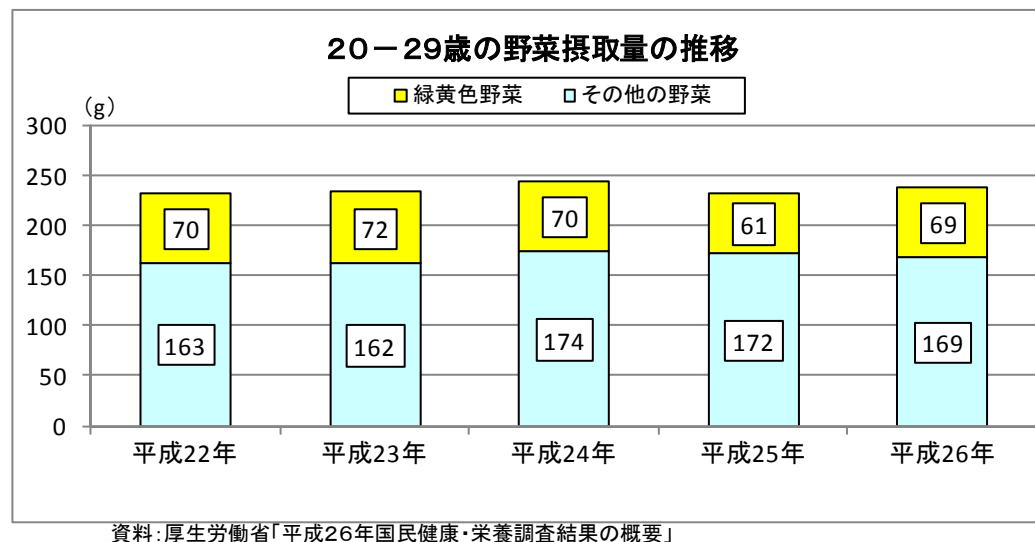


(2) 野菜の摂取量

- 平成26年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、前年に比べて増加し、292グラム（前年比103%）となったが、依然として、健康日本21（第2次）で示された野菜の摂取量の目標値（1日350g）を下回っている。
- また、30代以外は、前年よりも野菜摂取量が増加しており、特に、40代の野菜摂取量の増加量が大きくなっているものの、どの年代も目標値には達しておらず、これまでと同様に20代が一番低い水準となっている。



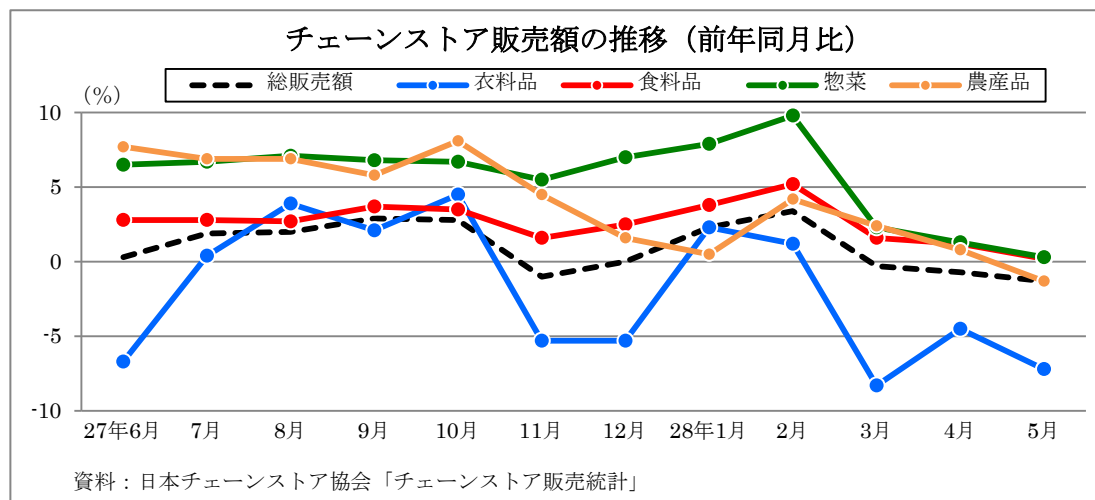
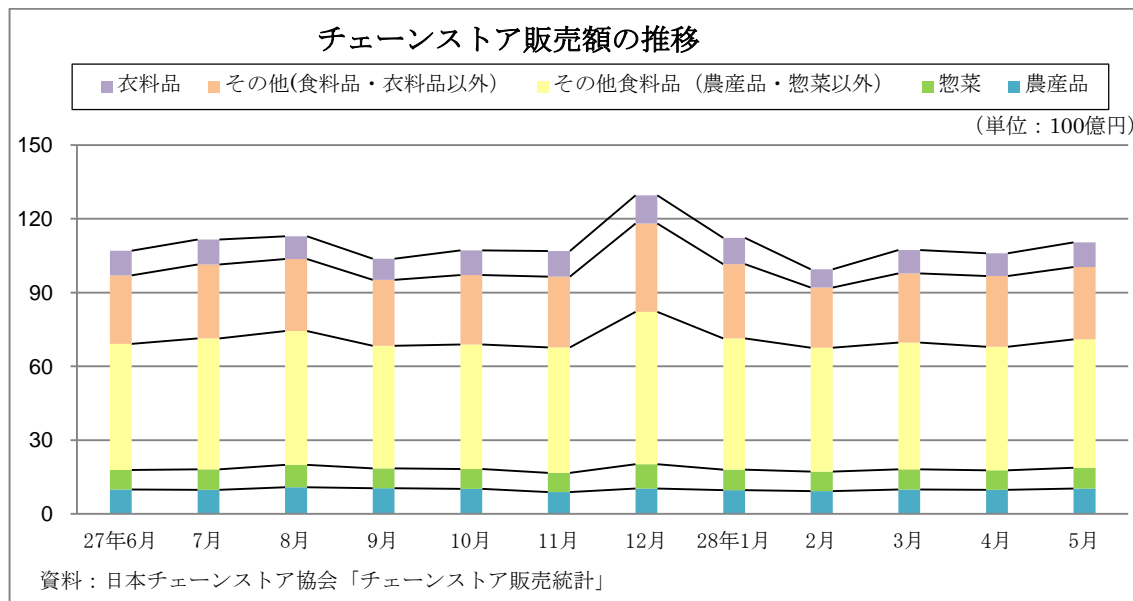
- 野菜摂取量が最も少ない20代の過去5年間の動向を見ると、ほぼ横ばいで推移している。緑黄色野菜とその他の野菜別に見ると、その他の野菜が若干減少（前年1.7減）したものの、緑黄色野菜が前々年並みの水準に回復（前年13.0%増）したことから、全体では前年比2.1%の増加となった。



2. 小売の販売動向

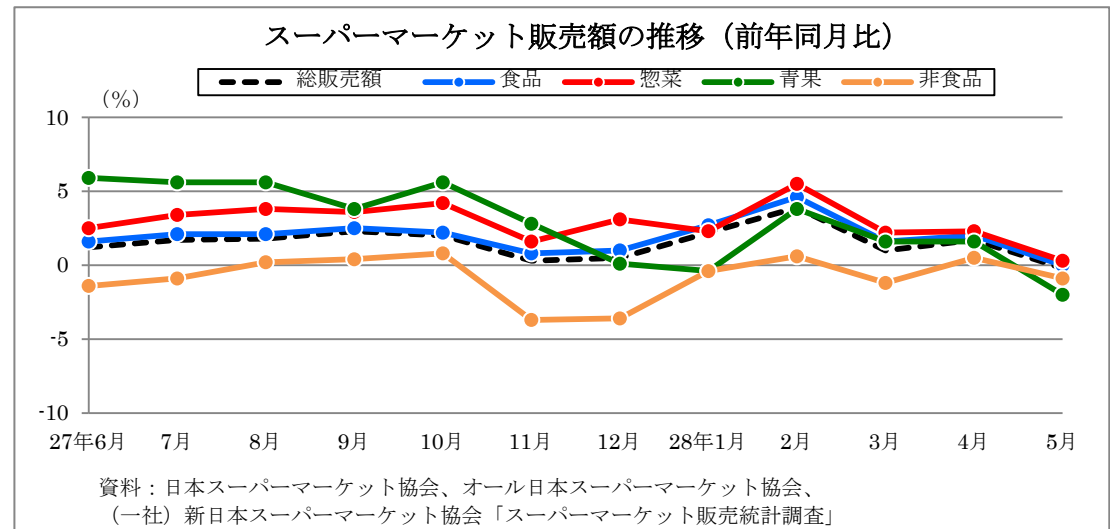
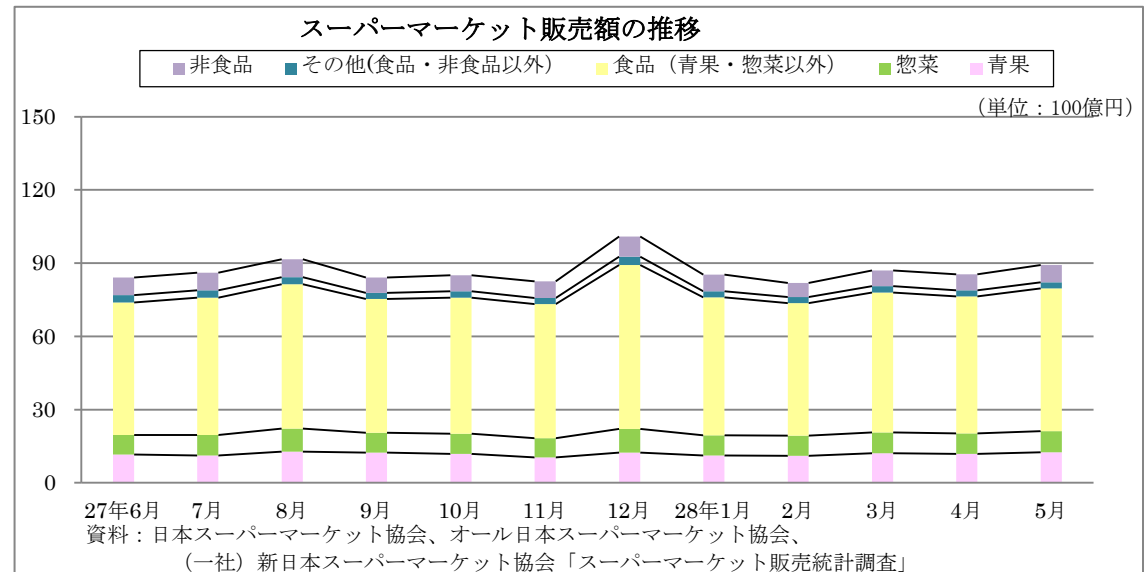
(1) チェーンストア

- 総販売額については、最高額は12月の1兆2,948億円、最低額は2月の9,952億円であった。前年同月比の動向は、6月から2月までは、11月を除いて前年を上回った。11月は、食料品は好調に推移したものの、気温高などの影響を受け衣料品などが不調に終わった。3月以降は、気温低下の影響もあり衣料品の春物商品が苦戦したことにより、マイナスとなった。なお、2月は閏年で1日多かった影響がある。
- 農産品については、最高額は8月の1,079億円、最低額は11月の887億円であった。前年同月比の動向は、6月から12月にかけては、野菜の主産地における天候不順により出荷数量が減少し、秋頃まで卸売価格が総じて高値で推移したことなどから前年を上回って推移した。5月は昨年に比べて卸売価格が安値であったこともあり前年を下回った。
- 惣菜については、最高額は12月の987億円、最低額は11月の780億円であった。前年同月比の動向は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりで消費者に支持され前年を上回った。

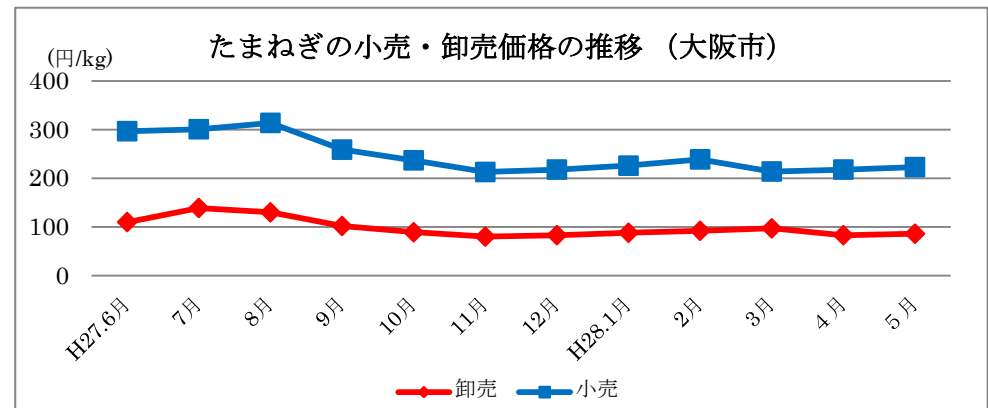
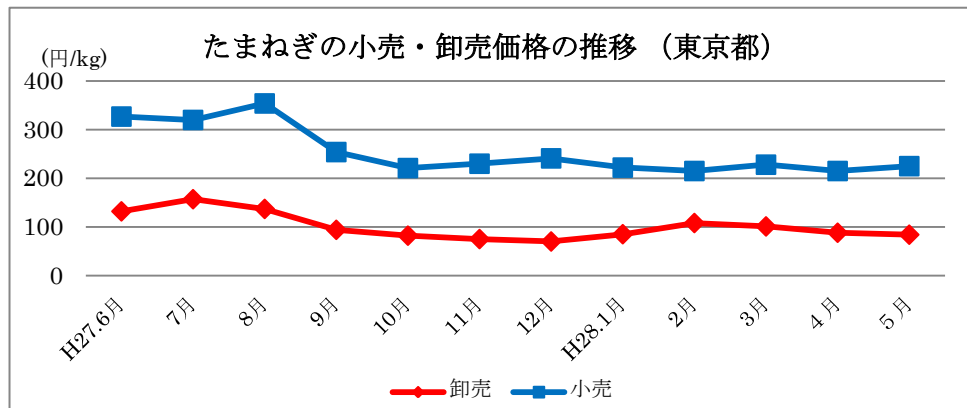
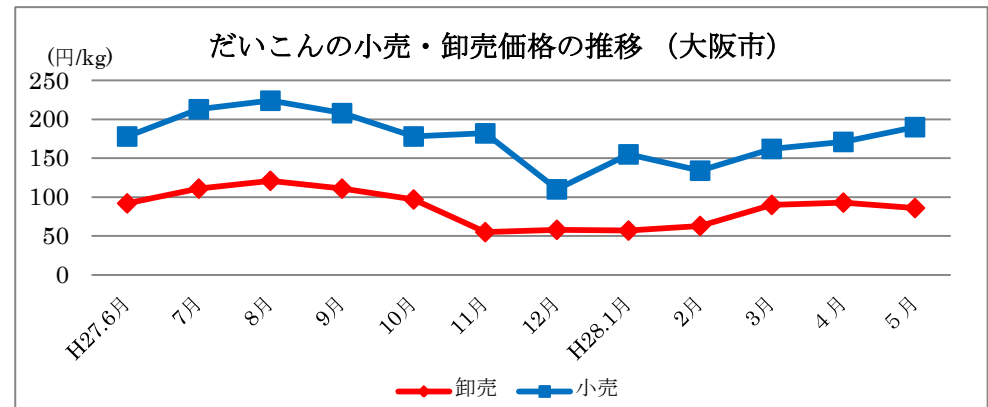
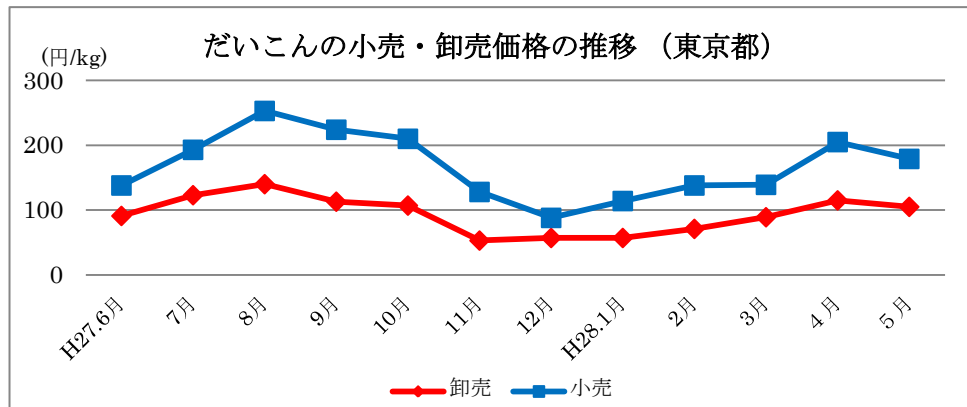
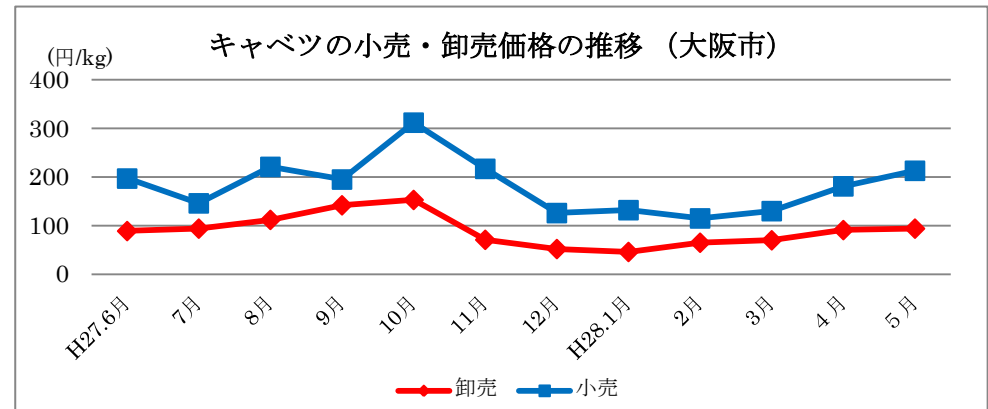
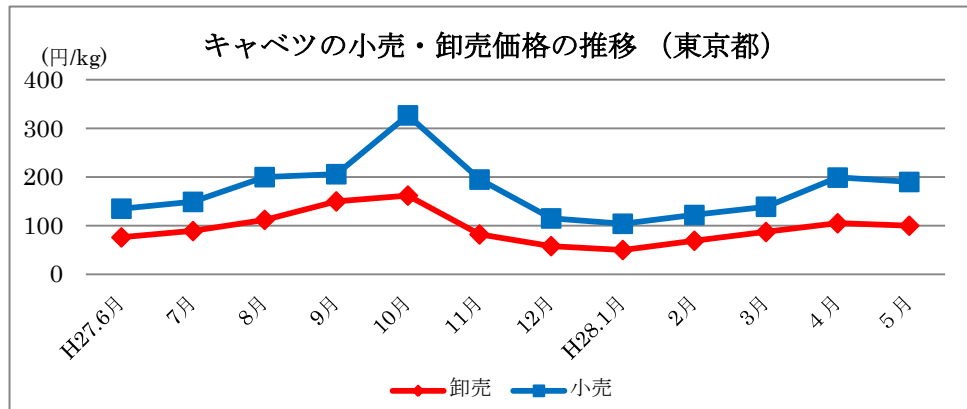


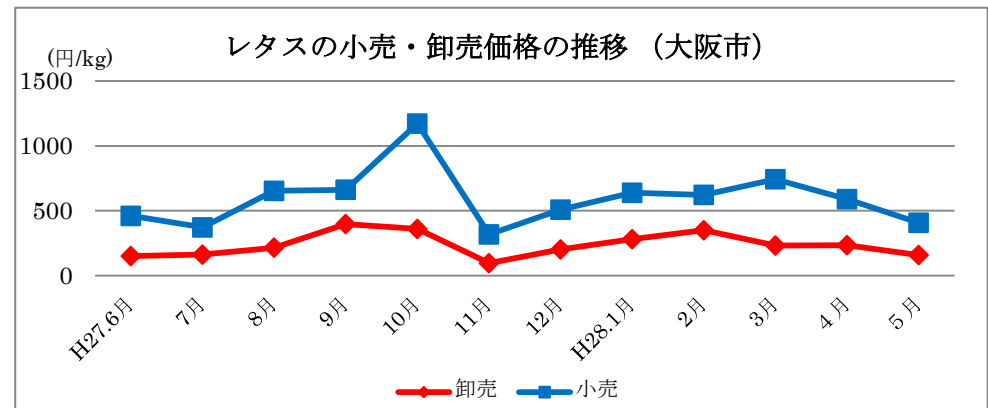
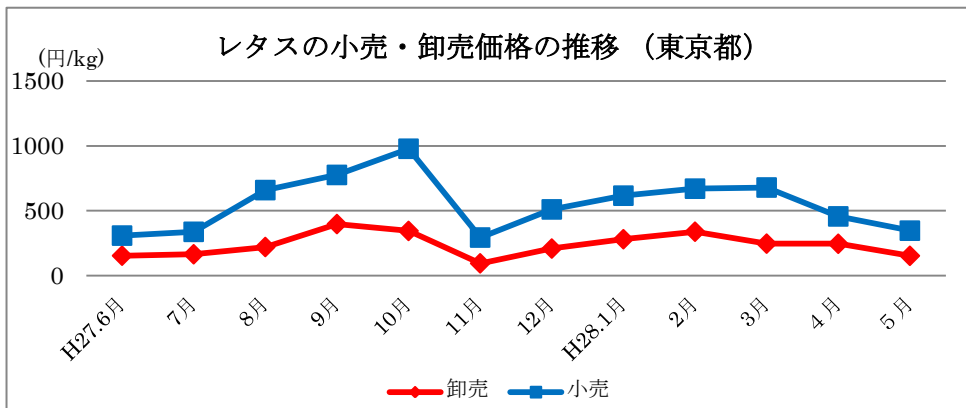
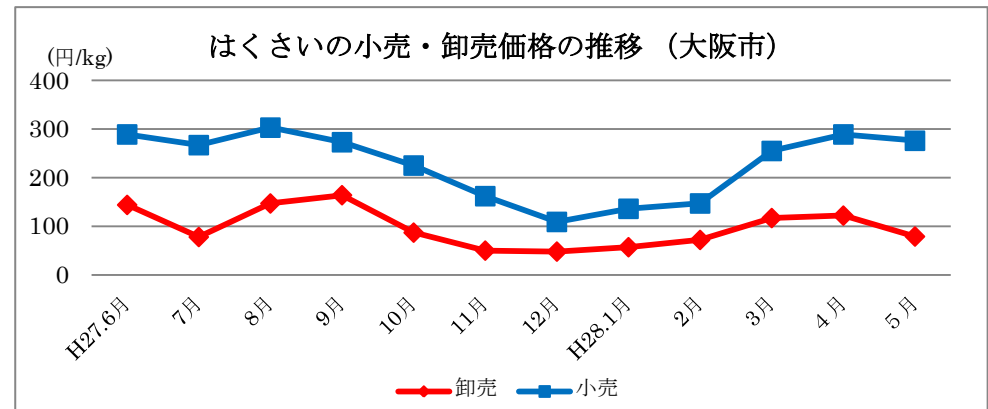
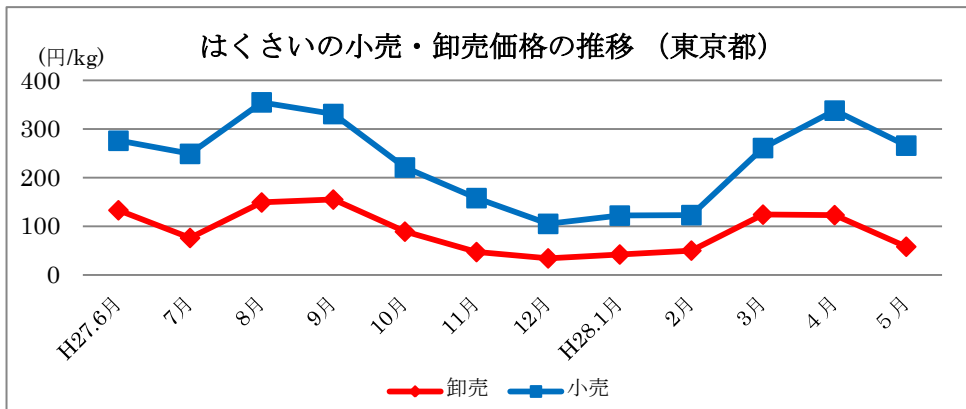
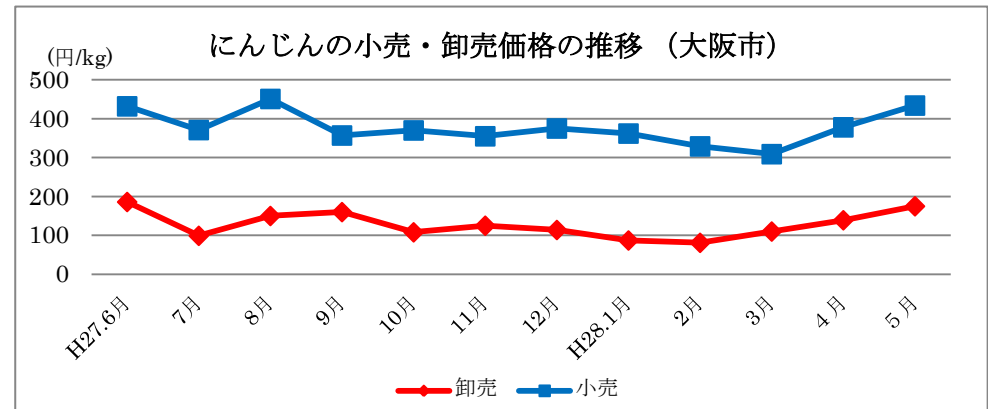
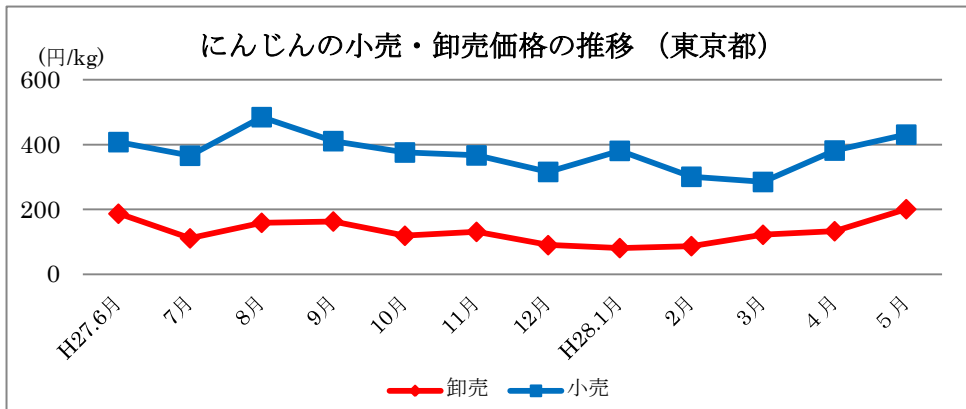
(2) スーパーマーケット

- 総販売額については、最高額は12月の1兆88億円、最低額は2月の8,187億円であった。
前年同月比の動向は、6月から4月まで前年を上回った。5月は、野菜の価格が昨年に比べて安値であったことや、金曜日、土曜日が1日少ない曜日回りがあったことなどから、前年を下回った。
- 青果については、最高額は8月の1,282億円、最低額は2月の1,042億円であった。
前年同月比の動向は、価格が12月、1月と4月、月、5月を除けば、主産地における天候不順の影響などにより、昨年に比べて総じて高値であったこともあり、1月及び5月以外は前年同月を上回った。
- 惣菜については、最高額は12月の974億円、最低額は11月の783億円であった。
前年同月比の動向は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりなどにより支持され、消費税増税や円安などの影響もなく前年を上回って推移した。



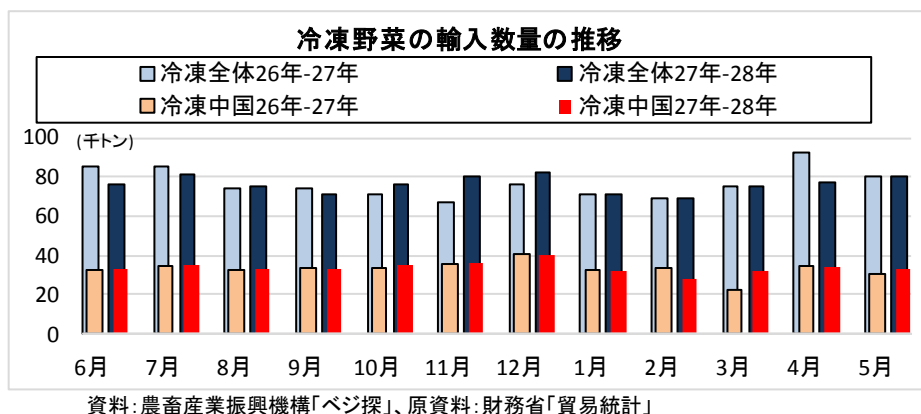
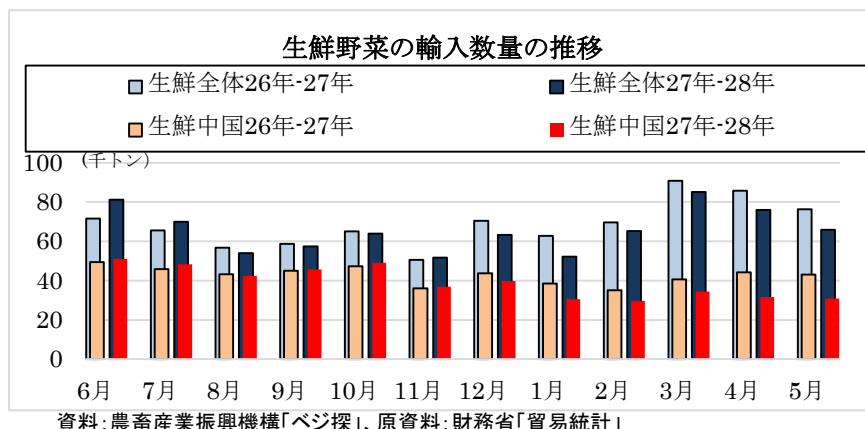
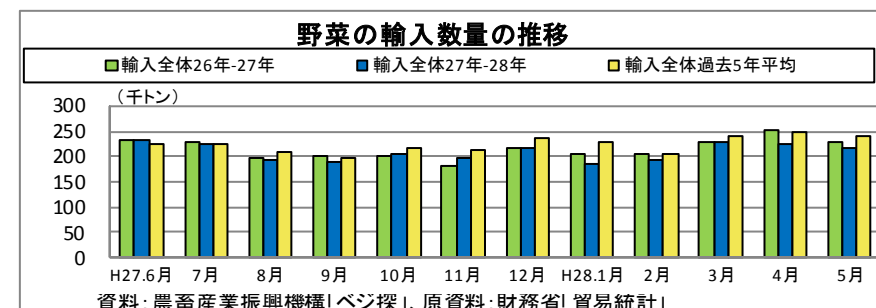
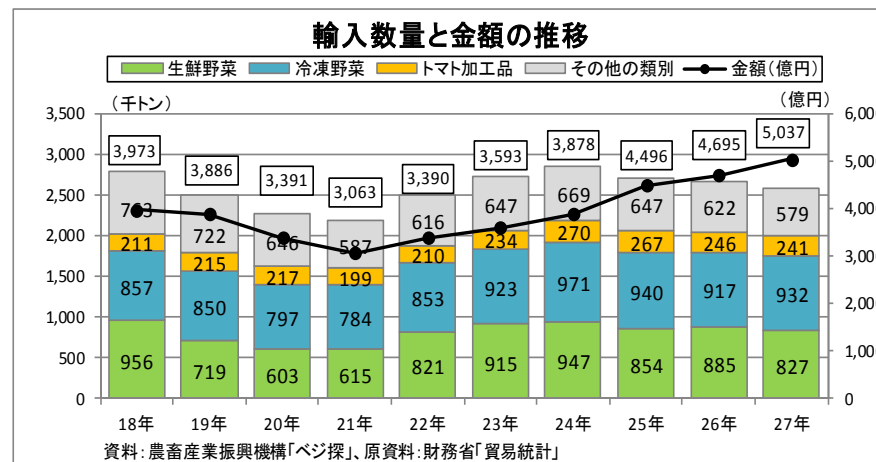
(3) 品目別小売・卸売価格

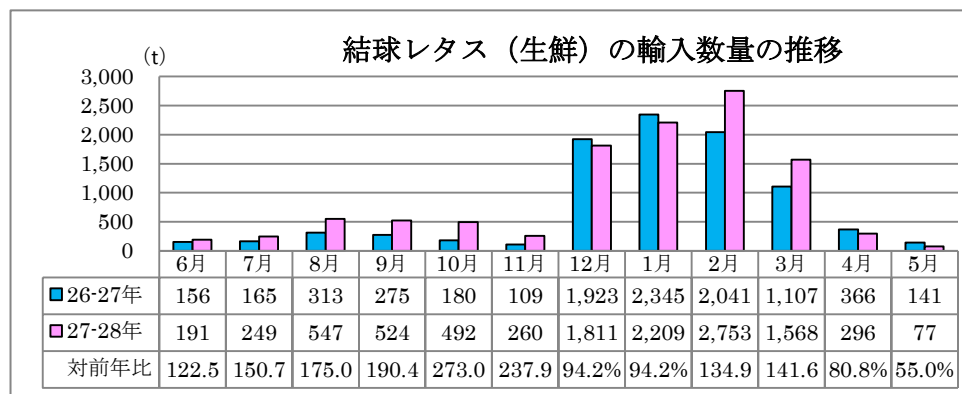
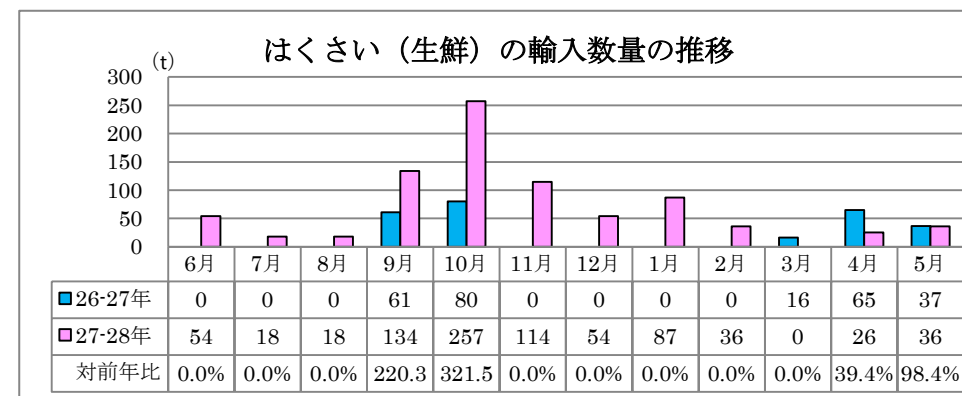
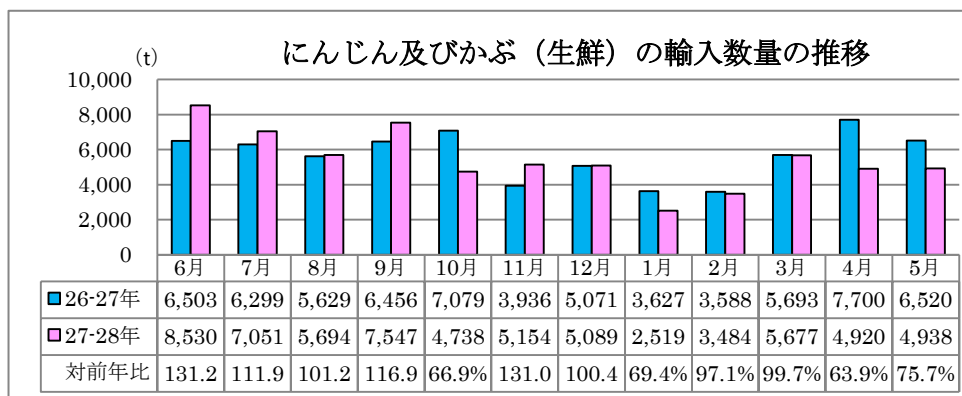
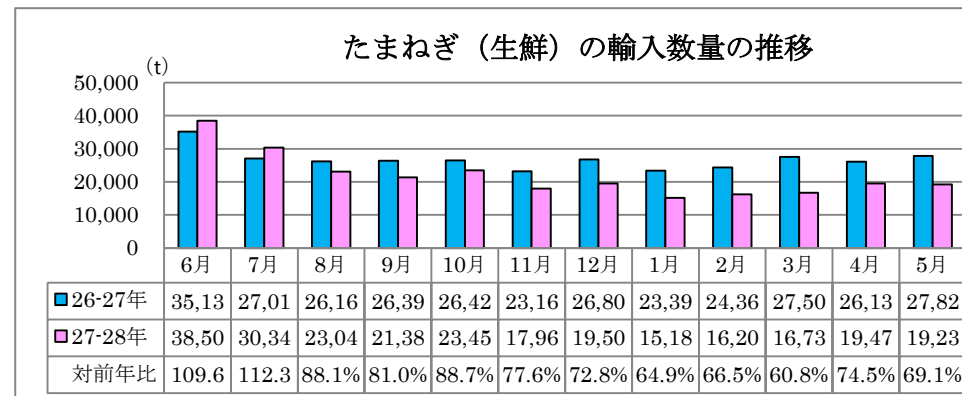
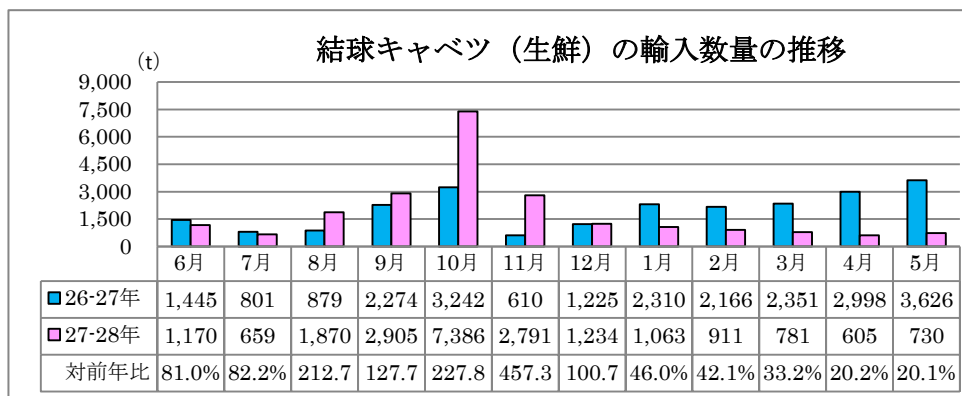




3. 輸入の動向

- 野菜の輸入数量は、平成24年以降減少傾向で推移している。平成27年は、円安及び海外産地の不作による輸入価格の高騰に加え、生鮮野菜の中で最も輸入数量が多いたまねぎが、北海道の作柄が良く、上半期の輸入数量が前年を大きく下回ったことなどから、前年を下回り、2,579千トン（対前年比97%）となった。
- 一方、輸入金額は、平成21年以降増加傾向で推移しており、平成27年は円安による輸入価格の高騰に加え、輸入数量の過半を占める中国産の生産・加工コストの上昇などから、5,037億円（対前年比107%）と過去最高となった。
- 類別では、生鮮野菜及び冷凍野菜の合計が野菜輸入数量の約7割を占めている。
- 生鮮野菜の輸入数量は、平成27年6月、7月は、佐賀県産たまねぎが干ばつ等の影響で小玉傾向になったことなどから前年を上回った。11月は、にんじんが天候不順の影響により出荷数量が減少したため前年を上回った。
- 冷凍野菜の輸入数量は、10月から12月は、ばれいしょの輸入が前年を上回ったことなどから、前年を上回った。これは、主な輸入先である米国が前年は米国西海岸港湾の労使交渉難航の影響で輸入量が少なかったことによる。





資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

4. 平成27年産夏秋野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

資料：農林水産省「作物統計(野菜)」
平成28年4月26日公表

○ 夏秋キャベツ

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	10,200	4,540	463,500	415,000	100.0
1	全 国	3,460	6,770	234,200	215,600	52.0
2	長 野 県	1,350	4,250	57,400	51,300	12.4
3	北 海 道	891	4,720	42,100	38,600	9.3
4	岩 手 県	708	3,760	26,600	23,700	5.7
5	熊 本 県	526	2,300	12,100	11,400	2.7
6	茨 城 県	520	3,900	20,300	18,700	4.5
7	青 森 県	348	3,650	12,700	11,200	2.7
8	秋 田 県	270	2,320	6,260	3,430	0.8
9	大 分 県	221	2,410	5,330	4,850	1.2
10	新 潟 県	217	2,330	5,060	3,280	0.8

○ 夏だいこん

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	6,370	4,140	264,000	240,100	100.0
1	北 海 道	2,590	5,250	136,000	127,800	53.2
2	青 森 県	1,680	4,090	68,700	62,500	26.0
3	岩 手 県	332	3,480	11,600	10,000	4.2
4	群 馬 県	285	4,140	11,800	10,700	4.5
5	熊 本 県	201	1,620	3,260	2,790	1.2
6	長 野 県	176	2,240	3,940	3,070	1.3
7	岐 阜 県	148	4,950	7,330	6,840	2.8
8	岡 山 県	88	3,920	3,430	3,030	1.3
9	宮 城 県	84	1,120	935	636	0.3
10	栃 木 県	75	2,220	1,670	1,340	0.6

○ たまねぎ

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	25,700	4,890	1,258,000	1,117,000	100.0
1	北 海 道	14,200	5,720	812,200	754,700	67.6
2	佐 賀 県	2,700	4,400	118,800	108,100	9.7
3	兵 庫 県	1,730	5,310	91,900	81,100	7.3
4	長 崎 県	776	4,020	31,200	28,000	2.5
5	愛 知 県	607	4,700	28,500	25,100	2.2
6	熊 本 県	332	3,410	11,300	9,590	0.9
7	静 岡 県	310	3,620	11,200	10,100	0.9
8	愛 媛 県	254	3,310	8,410	6,030	0.5
9	新 潟 県	251	1,860	4,670	2,290	0.2
10	栃 木 県	239	4,830	11,500	9,930	0.9

○ 秋にんじん

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	5,520	3,650	201,500	182,500	100.0
1	北 海 道	4,530	3,980	180,300	167,100	91.6
2	青 森 県	339	3,100	10,500	9,660	5.3
3	岩 手 県	105	1,630	1,710	876	0.5
4	新 潟 県	71	2,180	1,550	1,250	0.7
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-

○ 夏はくさい

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	2,490	7,080	176,200	159,100	100.0
1	長 野 県	1,770	8,360	148,000	134,300	84.4
2	北 海 道	314	4,290	13,500	12,200	7.7
3	群 馬 県	202	4,850	9,800	8,710	5.5
4	青 森 県	50	2,670	1,340	1,080	0.7
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-

○ 夏秋レタス

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	9,140	2,980	272,000	262,100	100.0
1	長 野 県	5,410	3,210	173,700	170,000	64.9
2	群 馬 県	1,110	3,980	44,200	42,400	16.2
3	茨 城 県	734	2,140	15,700	15,300	5.8
4	北 海 道	469	2,730	12,800	11,700	4.5
5	岩 手 県	375	2,390	8,960	8,280	3.2
6	福 岡 県	131	1,680	2,200	2,090	0.8
7	青 森 県	106	2,010	2,130	1,880	0.7
8	福 島 県	85	1,650	1,400	1,120	0.4
9	山 梨 県	72	1,620	1,170	1,090	0.4
10	栃 木 県	67	2,250	1,500	1,430	0.5

5. 今後の気象予報

1ヶ月（7月2日～8月1日）予報に見る確率

	平均気温（1週目）7/2～7/8	平均気温（2週目）7/9～15	平均気温（3～4週目）7/16～29
北日本	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み
東日本	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い の見込み
西日本	低 10% 並 40% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
沖縄・奄美	低 10% 並 20% 高 70% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北日本	日本海側	低 10% 並 40% 高 50% 高い 見込み	少 10% 並 30% 多 60% 多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
	太平洋側	低 10% 並 40% 高 50% 高い 見込み	少 20% 並 30% 多 50% 多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
東日本	日本海側	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 10% 並 30% 多 60% 多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
	太平洋側	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
西日本	日本海側	低 10% 並 40% 高 50% 高い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	低 10% 並 40% 高 50% 高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み
沖縄・奄美		低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み

注：「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較（以下同じ。）

出典：「全般1ヶ月予報解説資料」（平成28年6月30日発表 気象庁地球環境・海洋部）

◎3ヶ月（7月～9月）予報に見る確率

	平均気温 7月	平均気温 8月	平均気温 9月
北日本	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並の見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並の見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み
東日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み
西日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み
沖縄・奄美	低 10% 並 30% 高 60% 高い見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み

		降水量 7月	降水量 8月	降水量 9月
北日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並の見込み
東日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並の見込み
西日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並の見込み
沖縄・奄美		少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並の見込み

出典：「全般3ヶ月予報（7～9月）解説資料」（平成28年6月24日発表 気象庁地球環境・海洋部）